
刊行に寄せて

熊本市都市政策研究所長

農学博士

蓑茂 壽太郎



令和の新しい時代を迎えて最初の年報「熊本都市政策」第6巻をお届けします。熊本市都市政策研究所は平成24(2012)年10月創設のシンクタンクですが、その使命に三つの柱を掲げています。調査研究、人材育成、情報発信で、この3つの活動をバランスよく実施していくことで、小さいながらもきりと光る存在になるよう意識し、市の都市政策推進上なくてはならない存在となるようスタッフの力を結集しています。

この年報に搭載された論文やこの一年間に実施した講演会にも触れながら活動を振り返ってみたいと思います。

まず調査研究活動としては、政令市の熊本市では施策の執行能力だけではなく政策を立案する能力を強く求められていることから、そのヒントとなる研究に取り組んでいます。今年はいくつかの熊本市形成史図集の続編として、都市計画史図集の編纂に取り組みました。全庁的はもとより熊本県庁をはじめとする外部機関所蔵の資料をも収集することで約40項目熊本市都市計画に係る貴重な史料を図面データとして収集しました。この成果についてはいずれ刊行物として公表する手はずになっています。

研究員各人の個別研究としては、政令市への移行で区役所体制ができたことや熊本地震の経験などから熊本市庁舎の改築が話題となる中、これまでの熊本市域に於ける市庁舎や県庁舎の改築移転の経緯を調査研究しました。また生活インフラのストックマネジメントが人口減少社会の到来と相まって話題となる中、熊本市の下水道事業の歴史的な展開をその特性と共に考察しました。路上観察学と称する研究法がありますが、下水道事業の成果を市民が目当たりで出来るのはマンホールの蓋だけで、これを市内散策により確かめていくなら熊本市の下水道整備の推移が辿れると言うものです。そればかりかコンパクトシティのヒントが得られると思います。

この研究所は、成果を日常の行政に役立たせる実学研究を旨としています。自然科学的、社会科学、人文科学的アプローチと多様な方法で行政に資する研究に取り組んでいます。行政の新展開となりますと公民連携が大きな課題です。そこで類似の自治体がどのような取り組みをしているかについても調査を実施しました。熊本市をフィールドとした研究を推進する一方で、熊本と比較するにふさわしい都市の研究にも取り組んでいます。また研究や活動の成果を公表することで、熊本市は多くの研究者と識者の注目を集めることになります。そのことで「新たな知」がこの都市にもたらせるというメリットを期待します。調査分析の深度や考察の熟度などにより、研究論文、研究報告などに区別し、また総説や短報、資料等の区分も設けることで有益な成果をタイムリーに届けられるようにしています。なお今号では、市役所の各部署に籍を置く併任研究員が取り組んだ論文を2報収録しました。いずれも現場での課題発見を基に意欲的に取り組んだものです。

人材育成については、この一年間で講演会を4回開催しました。本市がラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界大会の会場となったことを踏まえ、世界規模のスポーツの祭典と地域の活性化について講演会を行い、関連の庁内研修会も開催し市職員がこれに積極的に係わる動機付けとしました。この他に、歴史、風景、グリーンインフラをキーワードとした講演会を開催し、新しい概念が次々と生まれる昨今に時勢を踏まえた研修の機会を提供し学び足しの糧としました。

3つ目の柱である情報発信については、4つの手段を駆使して行いました。一つはホームページ、二つ目は、見開き8ページのニューズレター、三つ目が年に4、5回の割合でのニューズメール発信、そして四つ目がこの年報によるものです。ホームページは年間のアクセス件数が2600件余でニューズレターは15号と16号で発行部数は各号1000部となっています。その他、所員が各種の学会や研修会に参加することで、情報の収集に努めるとともに、熊本市都市政策研究所の存在を全国に伝えています。